『もずく基金・産地視察 生産者交流会』が開催されました！

サンゴの基台にサンゴの苗を植え付け、海底で大きく育てます。２０１８年度までに、全国で２万９千本もの植え付けを終えました（コープＣＳネット内では、約 6,000 本の植え付け本数となっています）。

８月２０日（火）～２２日（木）の３日間、沖縄県恩納村で毎年開催される“「もずく基金」産地見学・生産者交流会”が行われ、生協しまねからは３家族６名が参加となりました。

生協しまねが“もずく基金”の取り組みを開始してから、今年で１２年目。この産地見学は、中四国の生協の組合員家族を招いて、沖縄のサンゴの状態を実際に見学したり、「もずく基金」を通して行われているサンゴ再生事業を体験し、もずく生産者との交流や沖縄の文化・風土に触れることによって環境や平和を考える機会にしていただくための夏休み親子企画として継続し行なわれています。

恩納村漁業協同組合の皆さんより、「もずく養殖の流れ」や「サンゴ礁ともずく養殖との関係」など、サンゴ礁の海を育む活動（里海づくり）についての解説がありました。また、もずくについての詳しいお話もしていただきました。

干潟の海には、たくさんの海辺の生き物が生息していました。見つけた生物（貝や魚、海藻や棘皮類など）を専門家の方に見せ、正式な名前を教えてもらいます。今回は全部で４０種類の生物を確認しました。

（株）井ゲタ竹内「サンゴ基金」対象商品

「もずく基金」対象商品として販売を行い、売り上げの一部を「もずく基金」として、サンゴ礁再生事業に役立てています。